

平成30年度第1回ごみ減量化・資源化推進検討委員会 議事要旨

日時 平成30年5月24日（木） 13時30分～15時45分

場所 田川市役所本庁4階 第2委員会室

1. 開会

(会長)

4月以降新たな年度という事でこれからスケジュール等をあとで事務局からご説明があるかと思いますが、2年後の答申に向けてさらに我々の意見が少しでも反映できるような形で報告できればと思っておりますので御協力お願い申し上げます。

2. 議題

議題(1) スケジュール（案）について

(事務局)

【資料1：スケジュール（案）により説明】

(会長)

平成34年度のごみ処理施設稼働予定とごみ減量化、資源化を推進していく、この2つを考えながら、ご意見があればお願いします。

(委員)

スケジュール（案）については異議なしです。ごみ処理施設の建設は田川市郡で共同で行う方向なので、ごみ減量化、資源化も田川市郡で足並みをそろえた方が望ましいと思います。

(事務局)

確かに理想はその形が望ましいが、今回始めようとしています資源拠点回収事業であつたり細かく言うと分別の数も他の町村と違うので、すり合わせてスタートするのは難しい。まずは田川市が先行してできる所からやって、それに習っていただけるような町村があれば随時取り込んでいくような形が望ましい。少しずつ研究しながら進めていきたいと思っています。

(委員)

町村と情報交換は行っていますか。

(事務局)

これから田川郡東部環境衛生施設組合でゴミ処理をやっていくが、担当課長会議、市町村長会議等で連携を図っている。その中でこちらから情報提供できる部分は出していきたい。

(委員)

郡の方でも田川市のようなゴミ減量化の推進検討委員会は設置しているのか。

(事務局)

事務局の方ではそういった情報は把握していない。

(委員)

やはりもう平成34年度と決まっています時間もないので、少し働きかけをしないといけないんじゃないか。

(事務局)

8市町村の担当課長会議がございまして、会議の中ではゴミ処理施設の計画について議論を行っており、そういった中で意見交換、情報交換という場としても活用できると考えている。また、施設が稼動した後でもゴミ減量化の取り組みができる。

(委員)

市町村合併になった時に、同じゴミ処理施設でゴミの処理を行うが、ゴミ袋の値段は統一されるのか。

(事務局)

必ずしも統一される訳ではない。収集方法が違う。田川市のように直営でやっているケース、民間業者に委託に出してやっているケースではかかる費用が違う。分別数も違う。

(委員)

他の町村のゴミ袋の値段の情報を資料として出して欲しい。

(事務局)

他の町村のゴミ袋の情報と先ほどの郡の方でもゴミ減量化の推進検討委員会があるのかを事務局のほうで情報収集して次回の会議までに資料として提出します。

(会長)

全てを同じスタートラインで出発していける訳ではないという事が少しご理解頂けた

と思う。多少時間が掛かっても、途中でごみ減量化の取組み等が一致するように広域的に議論を進めていきたい。

(委員全員)

他に意見なし。

議題(2) 第2次田川市環境基本計画について

(事務局)

【資料2：第2次田川市環境基本計画について

参考資料1：第2次田川市環境基本計画 により説明】

(会長)

国の方でも環境基本法という環境の法律があるが、今年の4月に第5次環境基本計画が閣議決定されている。国と市では立場が異なり、国の方が策定が後ではあるが、この計画内容について反映しているか。

(事務局)

時期的なものもあり、全て反映できた訳ではないが、計画の策定途中でパブリックコメント、一般の人に計画の案を提示して意見をもらうという手順を踏んでいる。その中で収集が可能な情報については収集しながらできるだけ計画の中に反映させて環境基本計画を策定している。

(会長)

国との関連も多少考慮しているということでご理解ください。何か他に意見はあるか。

(委員)

これはどういう場で活用する概要版なのか。

(事務局)

これを元に6/15号の広報に掲載する。

(会長)

これで十分に環境審議会で議論されたと思いますが、第一次田川市環境基本計画と同様コンサルが中心に計画の内容を整理し、それに対する議論という形で環境審議会でも議論されたのでしょうか。

(事務局)

計画の策定について、コンサルに委託をして環境審議会の委員の意見を頂きながら、

策定したという経過である。今年度も引き続き環境審議会については継続して開催することとしており、具体的にはこの計画の進捗状況のチェックを行うこととしている。

(会長)

昨今の流れとして環境基本計画に関しても数値目標を立て、それをどれだけクリアしたかという評価、この部分が非常に重要になっている。昔はやりっぱなしだったが、昨今はプラン、ドウ、チェック、アクションというような考え方も取り入れながら、できるだけ一步一步、年々意識を含めて取組み等を向上していくような計画作り、その一つとして数値目標を確実に入れてクリアして評価していくという新しい考え方で。他に意見はあるか。

(委員)

ここに挙げている数値を目標に、ごみを減らすのに田川市の市民は頑張っていこうという事か。

(事務局)

方向性としては国・県・市町村も同じごみを減らそうということで、具体的に田川市の目標として、ごみの総排出量でいうと10%減を目標にしている。

(委員)

印象として数値化すると市民の意識が高まり、課題が与えられたようで良い。

(委員)

これまでは、文章ばかりで一般市民が分かり難かった。概要版は一般市民に分かりやすく、絵などが入っている。10%減をPRして市民全体でその方向へいけたら良い。

(委員)

やっと田川市が飯塚市に追いついてきている。

(会長)

平成に入ってから色々な法律の中に国民の責務、という部分が入ってきている。環境問題は国民一人ひとりが関わる問題であり、国民の責務の中で意識を上げ行動して頂きたい。皆様のご協力をお願いします。

(委員全員)

意見なし。

議題(3) 市民に対する「見える化」について

(事務局)

【資料3：市民に対する「見える化」について

参考資料2：広報たがわ（平成29年6月1日号他）

参考資料3：容器包装リサイクル協会パンフレット

参考資料4：青森県弘前市広報誌

参考資料5：東京都府中市広報誌

参考資料6：東京都国分寺市広報誌

参考資料7：石川県小松市町内会説明資料

参考資料8：田川市分別説明会資料（平成19年） により説明】

(会長)

資料3に田川市の広報で使った資料がありますが、これとその他の資料を比べると違いがいくつかある。広報は予算の関係もあるだろうが、白黒に写真があって重苦しい印象。他の市はカラーでイラストを使って字が少なく分かり易い印象がある。今後は出来たらカラーでイラストを用いて分かり易くという所を見える化の1つの大きな柱として広報担当に要求して頂きたい。他にご意見ありますか。

(委員)

先ほどから弘前市ごみ減量化魂を見て本気度が見えてくる。田川市に本気度があるのか。市政だよりを見て訴えるものがない。市政だよりを見て市民が話し合えるような内容にして欲しい。弘前市は「ええ！ゴミにこれだけお金が掛かっている！」と話し合える。そういう所からごみ減量の話が出てくる。もうひと工夫して頂きたい。

(委員)

恐らく広報を編集されている方がそれ自体が市民にどう写っているかを確認していないと思う。今は文章が並んでいるだけ。

(委員)

市の広報の人はある程度同じスタンスで同じ形でというのが頭にあると思う。視点を変えて作って欲しい。

(委員)

市の広報の中に市民の声が入っていない。編集の方の意識が偏ったままだと思う。

(会長)

今、市長が地域に色々ご意見を伺いに回っていると聞いている。

(事務局)

そうですね。市長と話す会という形で回っている。

(会長)

そういう所に広報の方を連れて行くか、市長自ら、「広報に関していかがでしょうか、ご意見ありませんか」と市民の意見を聞いて欲しい。

(委員)

広報の方は広報の方で一生懸命やっているんでしょうけどね。

(委員)

一方通行ではもったいない。

(委員)

広報に私達がこのような話合いを行っていることも一言も出てこない。このような委員会を行っていて田川市はごみ減量化を呼び掛けています、と掲載することが見える化に繋がってくると思う。ホームページを見ても何ひとつ出てこない。

(会長)

ホームページに議論の一部は載っている。

(委員)

ホームページはお年寄りは見ない。年配の人に協力してもらう必要があるが。

(会長)

田川市郡は高齢化率 30%超えている状況なので、多少イラストか見える化をして分かり易くするようなことも考えて欲しい。

(事務局)

広報の担当をかばう訳ではないが、月に 2 回しかない誌面を多くの課が取り合っている状況でもある。広報としても見易いように字を大きくしたり、字体を変えたり、光を反射しない紙に変えたりして努力している。やはり、記事によっては一方通行の情報で良い記事と市民の方に考えて頂くような内容にしないといけない記事と使い分けなければいけないと思っている。

(委員)

区長会でも委員会の中でこんな事していますと一言でも言って頂いたらまた違うと思う。この委員の中に区長さんが3人もいる。

(委員)

色んな委員会がある中で順位があると思う。私は町づくり検討委員だったが、2度も3度も広報に載った。

(事務局)

特に順位はない。開催頻度や、活動の内容、広報のしやすさという所で多少頻度が変わる事はあると思う。

(会長)

やはりごみ減量化に関する市民の意識を高めるために、機会があれば広報もしくは特集号でもパンフレットでも良いがごみの見える化をアピールして頂きたい。

(委員)

提案ですが、ごみ減量化のコンテストを行うとどうか。他の自治体ではしている。その中のひとつとしてダンボールコンポストがあるが、今は堆肥を作るところまでで、実際その後に家庭菜園までもっていつている人は少ない。そこまで持っていけて、それがひとつのコンテストになれば良いと思う。

(会長)

事務局の方で検討して頂きたい。

(事務局)

会長が言われた通り、出来る限り広報の誌面をとること等も含めて、少しずつ研究を進めていきながら、事務局で検討していきたい。

(委員全員)

他に意見なし。

議題(4) ダンボールコンポストの購入費補助制度の検討について

(事務局)

【資料4：ダンボールコンポストの購入費補助制度の検討について

参考資料9：段ボールコンポストの周知に係るホームページ等

参考資料10：段ボールコンポストの出前講座

により説明】

(委員)

取り組みの方を先にして、それから補助金を検討したらどうか。

(事務局)

事務局としては、今3人の委員の方にお使いいただいているダンボールコンポストの報告を踏まえた上で、補助金の予算要求をしていける方向にしていきたい。また10月以降なりますが、地元に入っていく、今後このような補助金制度ができますということを示していきたい考えです。現段階では、この件について広報・周知をした後に補助を行うかどうか検討するという考えはない。

(委員)

ダンボールコンポストは手間もお金も掛かる。ゴミ袋を購入した方が安いという考え方もある。補助を行うことに価値があるのか、という事を検討すべきではないか。

(委員)

ゴミについて考えている人は多いと思う。ダンボールコンポストもやってみたいと思っている人もいる。

(委員)

どれくらいの金額が節約できるのか具体的な費用を出すと良いと思う。

(委員)

私はじゃがいもの皮を入れると、菌を持つから入れない。土作り自体失敗するかもしれない。

(委員)

ダンボールコンポストの取り組みは必要な事だと思う。

(会長)

ダンボールコンポストの取り組みは必要であるという事で、また意見はコンポストの最終報告の時にお願いします。

議題(5) ダンボールコンポストの活用について (中間報告)

(事務局)

【資料5：ダンボールコンポストの活用について (中間報告)

参考資料 11：段ボールコンポストの試用記録

により説明】

(委員)

4/2 からダンボールコンポスト始めた。2ヶ月になる。今は堆肥作りを楽しんでいる。これからコンポストを普及していくための工夫やアイデアを考える事も楽しみです。

(委員)

発酵が遅かったので少し腐葉土を入れてみたら良かった。りんごはすぐにティッシュの様にボロボロになった。最初の頃は土の温度がなかなか上がらなかった。しかし、失敗の事例も今後の意見として伝えていければよいと思う。

(委員)

私は10数年ダンボールコンポストを続けている。とにかく生ごみを入れる。発酵が遅い時は生ごみの水分も入れる。温度が低い時は油をふいたティッシュごと入れる。自然界で分解しないものはないと思っている。魚の鯛の骨は入れない。

(委員)

感動しました。家にあるダンボールで出来るのもいい。私の家では、生ごみが出たら新聞紙や広告に包んでレジ袋に入れて次のごみの収集まで家に置いている。

(委員)

燃えるごみの量が減った。ごみ箱も綺麗なままで、臭いもしない。

(会長)

次の委員会まで、問題点が出てくるかもしれないので、2ヶ月間もう少し頑張って続けて頂けたらと思います。ダンボールコンポストはあくまでごみ減量化の一部の部分だという事を理解する為には、全体的な議論もしておく必要があると思う。並行してしないとある部分だけに特化した議論になると一般の人々の参加、意識の向上が伴わない。今後ともご協力お願いします。

議題(6) その他

(事務局)

今年度の視察について、日程については、第3回の11月にさせていただきます。なお、視察先のご要望等があれば、事務局までお願いします。

(委員)

徳島県の上勝町は34分別している。毎年国内外から2500人以上の方が視察している。案の一つとして提案したい。

(事務局)

次回の開催日は8月を予定しております。日程については今後調整いたします。

3. 閉会